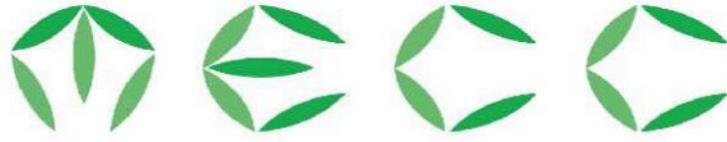




藤原 和広 (Kazuhiro Fujiwara) 委員

みなと環境にやさしい事業者会議 幹事  
東京ガス株式会社 地域共創カンパニー (東京中支店 支店長)

早稲田大学商学部卒業後、東京ガス株式会社入社。2023年10月、東京中支店長就任にあわせ、みなと環境にやさしい事業者会議幹事。カーボンニュートラル社会実現に向け、自治体と連携しながら各種エネルギー施策を推進。



みなと環境にやさしい事業者会議  
minato eco-conscious consortium

# 私たちが描く2040年代の港区

－ 環境・リサイクル －

幹事 藤原 和広

(東京ガス株式会社地域共創カンパニー 東京中支店 支店長)

## 0. 自己紹介

### みなと環境にやさしい事業者会議

事業者、区民及び区が連携して環境保全活動に取り組むことを目的として設立した任意団体。環境保全に関する普及啓発活動の実施、また、会員の情報収集の場として環境に関するセミナーや講演会を実施



### 東京ガス株式会社

地域密着のエネルギー会社として、港区と包括連携協定を締結し、カーボンニュートラル社会実現に向けた取り組みを展開



事業者と区民の双方の目線で、2040年の港区について考えてみる



## 1. 環境・リサイクルから見る港区の現状について

地域幸福度「Well-being指標」より

区民の感じ方

データから見えること

港区の強み



港区の課題



今ある街並みを大切に、今ある課題を一つずつ改善していくために、事業者、港区、そして区民が自分事として環境を意識した行動をとることが重要

出典: <https://well-being.digital.go.jp/dashboard/>



3

## 2. 環境・リサイクルから見る2040年代の港区について

### 緑と共存共栄する港区

自然環境価値向上

緑の機能性充実

- 自然環境との共存により事業成長に寄与
- 緑豊かな環境で生活することによる Well-Being 向上
- 自然と共存による自然災害抑制

事業者

区民

港区

### 実現のために実施すること

・緑あふれる港区の価値を認識し、維持向上に資する行動を前提に事業活動展開

・自然を身近に感じ、その価値を享受し続けられるような行動の実践

・区民・事業者に対する「緑あふれる港区」であり続けるための施策展開、啓蒙活動

自然環境が有する多様な機能を活用し、「自然と共生する港区」を実現



緑や生物が増え、港区ならではの海・公園・都市の融合によるさらなる魅力や価値の向上を目指す



4

## 2. 環境・リサイクルから見る2040年代の港区について

### 循環型社会を実現した港区

世界に誇れるクリーンな街

先進的な循環型社会をリード

- ゴミを「出さない」「あふれさせない」行動
- サーキュラーエコノミーを事業者・区民がともに実現

【サーキュラーエコノミーイメージ】



ごみへの取り組みを“特別”ではなく“当たり前”に実践することで「先進的な国際都市港区」を目指す

—— 実現のために実施すること ——

事業者

- ・ゴミ、廃棄物を出さない前提での行動、事業活動およびクリーンな街づくり
- ・3Rの徹底

区民

- ・「エシカル消費」の実践

港区

- ・サーキュラーエコノミー実現に向けた環境の整備

資源の効率的・循環的な利用が図られ、「廃棄物の発生抑制ができる港区」を実現



5

## 2. 環境・リサイクルから見る2040年代の港区について

### カーボンニュートラルな港区

省エネ行動を  
当たり前

エネルギー先進都市

- 区民の安心安全を前提とした再エネ導入を標準化
- カーボンニュートラルのための取り組みを前提とした事業運営
- エネルギー効率化に感度高く活動を展開

—— 実現のために実施すること ——

事業者

- ・カーボンニュートラルに資する先進技術開発とその導入

区民

- ・日常からの徹底した省エネ行動
- ・高効率設備および再エネの導入
- ・カーボンニュートラル社会に対する関心向上

港区

- 省エネの啓蒙活動、再エネ普及および先進技術の導入促進

「カーボンニュートラル社会と Well-Beingを両立した港区」を実現



「カーボンニュートラル」を事業者・区民とも「自分ごと」ととらえ、行動できる港区を目指す



6

## 2. 環境・リサイクルから見る2040年代の港区について

### SDGsウェディングケーキモデル

ストックホルムにあるレジリエンス研究所の所長が考案した、“SDGsの概念”を表す構造モデルのこと。

SDGsの目標17をケーキの頂点として、その下にある3つの階層「経済圏」「社会圏」「生物圏」によって構成され、「経済」の発展は、生活や教育などの社会条件によって成り立ち、「社会」は最下層の「生物圏」、つまりは人々が生活するために必要な自然の環境によって支えられていることを表している。



社会・経済の中心地“港区”では、バランスの良いウェディングケーキモデルの実現が必要

出典: <https://sdgs.media/blog/3834/>



7

## 2. 環境・リサイクルから見る2040年代の港区について

社会・経済の中心地“港区”だからこそ、持続可能な「社会圏」「経済圏」を支えるためにも、その土台となる「生物圏」のそれぞれの目標を達成する必要がある



ありたい姿

緑と共存共栄する港区

循環型社会を実現した港区

の実現につながる

カーボンニュートラルな港区



8

## 2. 環境・リサイクルから見る2040年代の港区について



海外からの玄関口となる「浜松町」、自然豊かな「有栖川宮公園」、「芝浦運河」など  
様々な顔を有する港区で  
カーボンニュートラル、ゼロウェイスト（＝自然共生型都市）の実現をしたい。

そのためには区民・事業者・自治体の連携が不可欠。

自然あふれる、世界に誇る港区を一緒に目指していきましょう！

